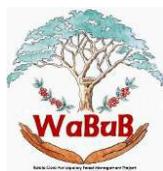


WaBuB PFM News

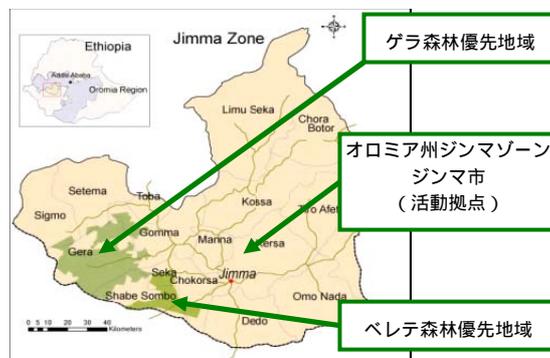
~ Respect Local People's Knowledge for Sustainable Forest Management ~



JICA 技術協力プロジェクト

エチオピア ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ2

2008年11月15日発行 (第23号)



フェアトレードって何だろう？

ジンマにいと情報から疎くなってしまうのですが、日本でも「フェアトレード」という言葉は、最近、よく聞かれるのではないのでしょうか。先日、明治学院大学のゼミ生6名+先生がはるばるベレテ・ゲラを訪問して下さいました。フェアトレードを卒論のテーマとして考えている学生もあり、関心が高まっているようです。当プロジェクトの森林コーヒー認証の取得も、一種のフェアトレードと言えます。宣伝になってしまいますが、「世界に広がるフェアトレード~このチョコレートが安心な理由」(清水正著、創成社)という新書が今年発刊され、その中で WaBuB と森林コーヒー認証の仕組みも取り上げられています。「フェアトレードって何だろう？」と興味を持たれている方、是非、ご一読をお薦めします！

森林コーヒーの認証審査終了！！

2007年に引き続き、2008年もプロジェクトは生計向上活動の一環として森林コーヒー認証取得のための活動をサポートしてきました(認証取得の流れについてはWaBuB PFM News 第11&12合併号参照)。コーヒーはベレテ・ゲラの特産物であり、認証取得によるコーヒーの価値の上昇は、地域の農民の収入増加につながります。2007年の市場価格に対する付加価値は、15-25%にもなりました。これは、収入の約半分を占めるベレテ・ゲラのコーヒー生産農家にとっては大きな喜びです。今年も、認証の継続を目指して10月24日から29日の6日間に渡って国際認証機関 Rainforest Alliance(RA)の審査を受けました。

今回の審査は年次審査で、2007年に初めて認証を取得する際に実施された本審査とは異なり、簡易的な審査になります。しかし、プロジェクトでは本審査同様の心構えで認証の規格に合うように研修を行い、書類の準備を進めてきたので、ス

●	●	●	●
2007	2008	2009	2010
10月	10月	10月	10月
本審査	年次審査	年次審査	本審査

タッフ一同は緊張した面持ちで審査員を迎えました。審査の1日目は、認証に必要な書類の確認から始まります。審査2日目から5日目までは、対象21村のうちからランダムに選び出された4村を訪問し、各村で10-13農家合計43農家をインタビューしました。さらに、各村の森林内に存在するコーヒー園を踏査し、審査最終日には審査員の講評を受けました。



コスタリカから来た RA の審査員とインタビューを受ける農民

ベレテ・ゲラのコーヒー園は密林の中にあり、他のアフリカ諸国や南米で見えてきた木の生えていないコーヒーだけの農園と異なることに審査員は驚きを隠せませんでした。さらに、その密林の中にはライオン!や黒ヒョウ!!がいることを聞いて、少し腰が引けながらも、貴重な野生動物の存在に感心していました。

最終日の講評での審査員の第一声は、「ベレテ・ゲラのコーヒーは、紛れもない有機栽培のコーヒーで、重大な不適合はない」ということです。この言葉に、半年間この審査を通るために奮闘してきたプロジェクトスタッフ一同胸をなでおろしました。しかし、ここで安心してはいられません。今年も下のような数点の指摘事項がありました。これらは昨年の指摘事項にも含まれていましたが、伝統的・慣習的なものであり、一朝一夕には改善が難しいものです。この点については、審査員も同様の意見でしたが、労働環境の改善に向けた取り組みが開始されることが重要であると指摘されました。WaBuBには研修など通じて、これらの指摘事項について来年までに改善することが求められました。

- 川の水は、濾過や煮沸してから飲用に使用する。
- 家屋内の換気・照明の改善をする。

森林コーヒー認証に関する今後の大きな課題は、審査にかかる費用や書類作成などのサポート体制をプロジェクト終了前までに整備することです。この課題克服に向け、現在、WaBuBの政府公認組合化の検討も始めています。

WaBuB は、現地オロモ語で(地域住民により組織される)森林管理組合の略称、PFM(Participatory Forest Management)は参加型森林管理の略称です。よって、WaBuB PFMは、本プロジェクトが確立・普及を目指す WaBuB による参加型森林管理方法を意味します。

WFS 参観日 ~チャフェ集落の巻~

雨期もようやく明けようかという 11 月のある日、チャフェ集落での農民の学校(WFS)参観日への招待を受けた。フェーズ 1 の時から WaBuB パイロットとして苦勞を共にしてきた農民達、その晴れの舞台だ。行くべし！テレビクルーと郡農業局長を「全然歩かないから...」とだまし、お伴とすることにした。

車を降りた峠に、しっかり農民がミュール(馬)をアレンジしてくれている。さすがだ。テレビ野郎共を「まあまあ...」となだめてミュールに乗せ、泥道を駆け下り、また登ること約 1 時間。最初は文句を言っていた農業局長も、「おー、きれいな森じゃないか...」と感心している。途中からは、招待を受けた近隣の村人も加わり、にわか賑やかになった。ようやくチャフェにたどり着くと、「ようこそ！」の張り紙と、おばちゃん達の笑顔。最高だ！近隣から 50 人ほどの客が駆けつけ、さっそく成果発表が始まる。



成果を発表するおっちゃん

メンバーの畑(Learning Site)には、これまで 1 年の成果が作物、野菜、苗木、コーヒーなど種類ごとにポスターにまとめられ、それをメンバーが交代で発表していく。かつて「プロジェクトは何もしてくれない！」と文句を言っていたおっちゃんが、一晩かけて練習したのだろう、必死に説明している姿を見ると、思わず目頭が熱くなる。素敵だよ...。畑にも苗木と野菜を組み合わせた工夫が幾つか見られ、来客者も感嘆の声を隠せない。

一通りの説明と質疑応答が済むと、参加者一人一人の自己紹介。冗談も交えながら、女性達の照れた姿に野次を飛ばす一方で、いざ自分の番になると、おやじ達は緊張で舌がもつれる。小話などの余興も出始め、中には WaBuB の詩を朗読する少年もいる。う~ん、BBC も呼ぶべきだったか...。しかし、フセイン長老の長い詩で、一気に熱が冷める。「メガホンいらねえだろ！」という野次も何のその。声高らかに朗読というより熱唱だ。何やら WFS への想いを詠っているらしいが、皆が白けている。う~ん、どこかでこんな雰囲気を感じた。そうだ！思えば高校時代に全校集会の度に詩吟を熱唱する校長がいた。誰も止められない...。



熱唱するフセイン長老

最後には、女性達からコーヒーとパン、おつまみの豆が振る舞われ、待ってました！とばかりに農業局長が演説を始める。これまでプロジェクト活動には非協力的で、WFS など訪れたことも無かったが、さすがにテレビの前でそんな素振りは見せられない。さすが田舎の政治家だ。「おれ様が WaBuB を始めたんじゃ~！」とでも言い出しそうな勢いで、「森林管理」を連呼している。しめしめ...。やはりイベントには、メディアと政治家は欠かせない。この調子で、卒業式でも熱弁をふるって頂きましょう。



郡農業局長の熱弁に聞き入る農民達

第 2 ラウンド WFS の開校！！

第 1 ラウンド WFS の卒業を前に、第 2 ラウンドのスクールが開校されました。10 月から来年 9 月末まで、1 年間(52 週)のセッションを行っていきます。新規の村落開発普及員が加わった上、農民ファシリテーターによる WFS も加わるため、第 1 ラウンドの 55 校と比べると、下表のように約 3 倍の数(138 校！各校 32 メンバー計 4416 人!!)に膨れ上がりました。開校にあたって行ったオリエンテーション(契約書の締結、文房具などの配布等)では、各 WFS からの代表者およそ 150 人の農民が一挙につめかけ、さすがにパニック状態になりました。今後、単に走らせるだけにならないよう、定期的な技術的サポートやモニタリング体制の整備など、質の向上が課題です。



WFS 文房具を大事に抱えて各村に帰るメンバー代表

郡/WFS 数	普及員	農民 FT	合計
ゲラ	63	34	97
シャベ・ソソボ	33	8	41

卒業に向けてラストスパート！！

一方で、第 1 ラウンドの WFS は 11 月末で 1 年 2 か月(識字率の低さなどによりセッションが軌道に乗るのに時間がかかったため 2 か月延長)のスクール修了・卒業を迎えます。卒業にあたっては、これまでの出席率が 75% を越えていることが 1 つの条件になります。それに加えて、WFS 学習成果のとりまとめとして、比較分析、費用便益分析、行動の変化、卒業後の行動計画作成などを各グループ毎に行い、レポートを提出してもらいます。農民エキスパートへの道は、厳しいのです。

その成果とりまとめの準備として、昨年もファシリテーション研修の講師として手伝ってくれたケニアからのジェーン専門家がベレテ・ゲラを再訪し、村落開発普及員達への研修を実施してもらいました。「こんな難しいことできね~よ~」と、我が普及員達はぼやいていましたが、「ケニアでも同じようにやっているのに、普及員のあなた達がそんなビビっててどうするの！」とのジェーンの厳しい喝に、さすがにタジタジになっていました。



ケニアの経験を踏まえながら講義するジェーン

卒業式の日取りも決まり、ゲラ郡は 12 月 13-14 日の 2 日間に分けて実施、シャベ・ソソボ郡は 20 日に行います。各日も 500 人を越える卒業生が集まる予定で、盛大な催しになります。特にゲラの卒業式には、日本大使やオロミア州高官も来賓として出席される予定です。エチオピアにおられる方々も、そうでない方々も、是非この機会にベレテ・ゲラにいらしてください。お待ちいたしております！